



遠近新聞

第三十號

定價二角

西垣文庫 特
文庫 10
7265
28



特 文庫10

7265

28



遠近新聞第三十号

慶應四年六月五日

このうをき第一番より抄出

エレキ傳信器

歐羅巴^{ヨーロッパ}よてカゼリ。テレグラフと云傳信器^{伝信器}を用^{もち}此器
 を用^{もち}時^{とき}ハ西洋^{西洋}の文字^{文字}ハ限^{かぎ}ら^なき何^{なに}もの國^{くに}の文字^{文字}ま^まに
 画像^{画像}をも頭^{あたま}をま^まべ^べ抑^{おさ}テレグラフと云^いふ^ふエレ
 キの働^{はたら}きよ^よて千里^{千里}よ^よても萬里^{萬里}よ^よてもこ^こよりか^か
 こ^こを^をせ^せたりが^がを^を引張^ひり置^おき^きある^るをもつ^つてあ^あら
 づ^づを^をま^まる^る器^器あり是^こハ今年^{今年}より七十年前^{七十年前}佛蘭西^{フランス}の人^人

第三十号

百五十二



5739

のとどろくの工夫を以て始めの考へしものを以て通ぜ
 しが今ハウ知字板を以て文字を書かうは成て人々
 のともちわきたよりを得る甲うはありしよりさきど
 もこのまゝ植字は限ありてその國の文字ありて
 ようよしくぬその思ふ儘ありざれば近頃工夫して
 西洋の字も日本その外亞西亞洲國々の文字も
 てもろくよ人の書く文字をかゝるよそのまゝあ
 ちし出はるものともあはる画像をもすと思ふまゝよ
 写し出はるこの器をガゼリ。テレグラフと云ふのと
 もかゝる器ありされば三四年の後ハ此のパリス

一住居する日本の人々その故郷へ音信を自國の文
 字して自由に通じ又己の真影画をこゝに画きて
 僅四五時の間は万里の外故郷の彼処に写し出し其
 恙なくらくさおもうげを其親子兄弟に見るる様
 ろうべし

イスパニア國并ユーストリア國

こゝがイスパニア女王日本と新に盟を結び且つ交
 易をなさんと企てその使者を遣ちきん事を去舟せ
 たりこゝに日本の近しロソンと云ふ富國あり此の
 國の領分あるは若し定約ある上ハ互ひに大なる國

益 一〇〇人

フーストリア國も亦日本へ使者を遣し和親を結ぶ
らんときあつるは此國大國あまがうろくく行
くを欲せむその使者は多くの軍艦を添ひ威光を
輝く一盟を結ぶんと去りあつる一昨年このう
隣國普魯亞と事ある折あるは本國の備へ暫時も
らむる事ありを今以てその使者を遣し遣すこと
能む今既は三月程の延引あり

元 込 小 銃

近年元込との小筒世は行はるは歐羅巴へ造り筒数

凡三百五十万挺よりとり

六月朔日伊豆殿に渡す書舟の写

平岡丹波事由家老に 仰舟に此段に旗本由家人中
にの差違の事

五月

是迄老中支配の分以来由家老支配とあり心得に尤
諸願諸進達物々五月番之中老にの差違の事
右之通に旗本由家人中にの差違の事

五月

若年寄

中老

御側御用出取次

御側御用人

御留守居

奥御用人

小普請之面々取扱

同

不勤支配

同

同並

同並

是迄出勝手方之御勘定奉行

御勘定頭

同並

同並

御廣鋪御用人

奥頭役

右之通唱替
仰出以間
得其意以事

五月

遠近所司

百五

○
 去月十日頃赤穂森候の由隠居江戸出立はお成りい
 とくろ小田原辺の異変より前後さし支へ箱根の湯
 治場は滞留のより噂せり

○
 今魯西亞國より鉄張の軍艦を多数造るもちや二艘
 出来上り又硬製の大砲を備ふるモニトル船数艘
 を造らむとゆふ

諸国人別調三

皆私領 ○二万五百四十石余

一同八万百九十六人 伊賀

四万六百九十七人 男

三万九千四百九十九人 女

御料私領 ○六十二万二千二十七石余

一同四十七万六千五百人 伊勢

二十三万七千八百八十三人 男

二十三万九千三百七十七人 女

皆私領 ○二万六十一石余

一同四十三万七千八百七十五人 志摩

一万八千五百四十四人 男
一万九千三百三十一人 女

皆私領 ○五十二万四千四百八十石余

一同六十万五千六百八十六人 尾張

三十万五千九百九十六人 男

三十万四百九十人 女

御料私領 ○三十八万三千四百十三石余

一同四十二万六百九十七人 三河

二十万七千四百六十六人 男

二十一万三千二百三十一人 女

三

丸以作哉